

春の企画「あおむしくんのたべものさがし」

生活療育支援科 石田泰美

5月30日、31日の2日間、春の企画を行いました。今回はオリエンテーリング形式で、「あおむしくんのたべものさがし」と題して開催しました。1、2階に用意した4か所のポイントを回った後、多目的ホールでさなぎになり、最後は蝶になって記念撮影をするという流れです。

1階エレベーターホールのポイントでは虫かごに入ったくねくねするあおむしのおもちゃを触り、屋根下広場では曲がりくねった道をたどった後にルーレットで野菜や果物、おいしそうなお料理の模型を「いただきまーす!」と触ります。2階のポイントの1つは、音を楽しむ部屋。カエル型クリッカーと賞状入れの筒を使ったたまごの割れる音、数種類の果物型マラカス、ビッグマック（音声コミュニケーション装置）に録音した歌や食べ物を食べる音等を聴きます。もう1つは、ゲームにチャレンジする部屋。お菓子のパッケージやタオルで作ったケーキ、活動で作ったドーナツ等たくさんのお菓子が飾られた部屋で、壁や机に貼られたカード（スイーツの絵）の神経衰弱にチャレンジしました。

今回は、入所の方は5病棟ずつに分かれましたが、通所の方は入所の方と一緒に時間を参加することが出来ました。通園の方は、保護者の皆さんと一緒に参加しました。天井にきらきらした光を放つほの暗いさなぎの部屋でリラックスして過ごす人、食べ物の模型を嬉しそうに持つ人、にこにこしながらあおむしおもちゃを触る人、風船の花がたくさん咲いたバラの香り漂う明るいスペースで、触角と羽をつけて蝶になった姿の記念撮影を行い、できた写真を大画面で見て満足そうにほほ笑む人…それぞれ自分の気に入ったポイントで楽しんでいました。

感染対策が少し緩和され、また、オリエンテーリングでポイントが分散したため、これまでよりも少し多くの方が一緒に参加することができました。今後も少しずつ緩和の段階を踏んで、多くの人と交流する行事が出来るようになることを願っています。ご協力いただいた各部署の皆様、ありがとうございました。



さなぎの部屋でリラックス



蝶になって はいチーズ☆シ

〒183-8553
東京都府中市武蔵台2-9-2
東京都立府中療育センター
電話 042(323)5115
FAX 042(322)6207

--*ホームページもご覧ください*-*-*

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/fuchuryo/index.html>

ひだまり

都立府中療育センター新聞 第546号 発行日 令和5年6月30日

令和5年度 日本重症心身障害福祉協会全国施設協議会 参加報告



看護科長 杉田弓子

去る5月19日に行われた「日本重症心身障害福祉協会全国施設協議会」に参加しました。全国登録施設数が3施設増えて139施設となり、今年度もオンライン形式で行われました。

はじめに、こども家庭庁支援局より行政説明がありました。障害者が安心して暮らし続けることができる地域共生社会を目指し、グループホーム等の活用や一人暮らし等を希望する利用者支援の在り方、障害児施設入所者の移行先確保、施設設備の在り方検討など様々な課題への取組について報告がありました。

脱施設、地域移行論には様々な意見が寄せられ、メディアでも取り上げられています。今回の講演でも、「重症心身障害者や重度知的障害者のための『終の棲家』としての入所施設は必要であり、理想論ではなく現実論として安易に脱施設論や地域移行論を流布しないでほしい」との声がありました。更に、重い障害のあるお子さんの親御さんからも、「子どもを入所させている親たちの大部分は、今は困惑しており、意見を述べられない状況にいる。それは、脱施設論者の主張があまりに美しく反論を許さない完全な理論であるかに見えるからだ。脱施設や施設解体を云うのであれば、施設に代わるものとして『地域』や『自己決定』などと美しい言葉を語るだけでなく、重症心身障害のこどもを残して安心して親たちが死んでいける具体的な受入れ場所、方法の代案を出してほしい」と語られていました。こどもが心豊かに成長し、幸せであるようにとのご家族の思いに、センターの職員としていかに応えていくかが問われていることを強く感じました。

重い話が先の紹介となりましたが、シンポジウムでは「重症心身障害医療における現場での集積と進歩」をテーマに、栄養や痙縮治療、気管切開等について報告がありました。食事の効果としてミキサー食の注入は回数よりも注入の有無が重要で、腸管機能の活性化が認められること、また、気管切開における気管腕頭動脈瘻などカニューレトラブルを防止する方法として輪状軟骨切開術の紹介がありました。

協議会に参加し、課題も多々ありますが、目の前のことをしっかりと受け止め、利用者さんがより豊かに生活を営めるように、QOLの維持・向上を目指し、みなさんと一緒に療育を探求していきたいと思ひます。



通園 春の遠足

通園 遠足担当



5月26日(金)、さくら組・ゆり組でJRA競馬博物館・日吉が丘公園に「春の遠足」へ行きました。5月になってから「えんそくバス」という曲を練習し、何度も遠足のシミュレーションを行いました。昨年は残念ながら大雨でしたが、今年は綺麗な青空が広がっていました。大きな観光バスに乗り、いつもより高い場所から見る景色を眺めたり、「えんそくバス」を歌ったり…あつという間に、日吉が丘公園に到着！長いローラーすべり台や今年から再開した噴水で元気いっぱい遊び、たくさんの笑顔が見られました。厩舎で休んでいたお馬さんに会うことができ、迫力にびっくりしつつ、目をキラキラさせてご挨拶をしていました。

おいしいお弁当を食べた後は、競馬博物館を1時間ほど見学しました。展示をじっくり見た後は、記念のスタンプをたくさん押して、それぞれお土産として持ち帰りました。最後まで天気も良く、楽しい思い出を作ることができました。

センターの春の花たち

生活療育支援科 小池泰子



2年前、令和3年の生活療育支援科行事の春の企画は「新府中療育センター移転1周年おめでとう！」と題して行われました。そこでバラの挿し木の記念の植樹を行ったことを覚えていらっしゃるでしょうか？旧センターの通所棟裏のバラを、それぞれの部署で植木鉢に挿し木しました。ポウベルズという品種のバラはその後すくすくと成長し、うち5本は屋外広場のリハビリテーション科脇に地植えをしました。今年の春は、大きな花がたくさんついて散歩に来た人の目を楽しませ、いい香りを漂わせていました。見逃がしてしまった方のために写真でご紹介いたします。



また、生活療育支援科のグループ活動「ストロベリー・アミーゴ」では、園芸活動を行っています。2階デッキや屋外広場の花壇に様々な花を季節ごとに育てていますので、是非そちらものぞいてみてくださいね。

バスドライブ

2C病棟 島田久雄



5月24日(水)に調布飛行場方面へのバスドライブを実施しました。

当初は府中市美術館の予定でしたが、感染対策としてバスドライブに変更となりました。前日が季節外れの寒さと雨だったにもかかわらず、当日はドライブだけではもったいないくらいに晴天でした。外の景色を見ながら、季節の音楽や「小鳥の鳴き声クイズ」などのレクリエーションを楽しみました。味の素スタジアムでは今夜のサッカーの試合の準備をしているところや、飛行場では2機の飛行機を見ることができました。楽しい時間は過ぎるのが早く、あつという間の半日バスハイクでしたが、利用者のたくさんの笑顔で、穏やかな楽しいひとときを過ごせたと思います。

誕生会&お楽しみ会

3A病棟 青柳絵理子

5月の誕生会は、誕生者2名の方をメッセージと歌でお祝いしました。そのうち、1名の方は30歳という区切りの年齢だったため、お祝いのお花のボードを持ち、ドレスで記念撮影をいたしました。「写真を撮りますよ」の声かけに、目が大きくなり、しっかりとカメラ目線での撮影でした。その後の「お楽しみ会」は、久しぶりの「映画会」です。

「映画会」では、昨年話題になった「スパイファミリー」の1話～2話を上映しました。イケメンスパイ、美人の殺し屋、かわいい超能力者の女の子と、個性的な登場人物がニセ家族(ファミリー)をつくり活躍する物語です。アクションあり、ギャグありのストーリーに、利用者みなさんも笑顔で大きなスクリーンを見つめていました。次がどうなる？と気になるところで、今回は終了。この続きは、6月に上映します。病棟内にポスターを貼り、「映画はどうでしたか？」「どうなるかな？」と、引き続き盛り上がっています。次回もお楽しみに…。

